

特集／居ごちのよい住まい
平成27(2015)年3月1日発行
頒価／1,000円(送料別途)

発行

大阪ガス(株)
エネルギー文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人

木全吉彦

企画・制作
豊田尚吾

編集人

湯原公浩

編集

(株)平凡社

Art Direction & Design

岡本一宣デザイン事務所

校正

(株)アンテナバンドン

DTP制作

(有)ダイワコムズ

印刷・製本

(株)東京印書館

お問い合わせ窓口

大阪ガスビジネスクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for
Culture, Energy and Life
©2015 OSAKA GAS CO., LTD

※禁無断転載複製 ※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は必ずしも大阪ガスの見解を表すものではありません。本誌バックナンバーのコンテンツやエネルギー文化研究所(CEL)の活動内容は、インターネットホームページでご覧いただけます。

衣食足りて……

大阪ガス(株)
エネルギー
文化研究所 所長

木全 吉彦

Kimata Yoshihiko

「衣食足りて礼節を知る」は、中国の法家・管仲^{かんちゆう}が著した『管子』の一節、「倉廩實則知禮節、衣食^い足りてすなわち^{そうりんみちてすなわち}礼節^{れいせつ}を知る^{しる}」に由来します。蔵に米が満ちて初めて人々の行いが正しくなり、衣・食に不自由しなくなれば名誉を重んじ、恥を知るようになる。すなわち経済的基盤が整って初めて人心が治まるというメッセージです。

日本発のKAWAII、KIREI、WASHOKUが世界を席卷しつつあるように衣・食が足りた今、礼節ではなく、量的には充足しながら質的充足にはまだまだ課題が多いのがわが国における「住」です。

室内の装飾・演出を表す「^{しつら}設え」は平安時代、邸宅での宴や儀礼の折に調度品などで部屋を飾った「^{しつらい}室礼」からきているとのこと。特集では、礼節とも無関係ではないかもしれない、衣食足りたあとの重要課題である「住」について、住まい手にとって居ごちのよい——cozyな——暮らし方という観点から考えてみました。

2年前、CEL103号の「CELからのメッセージ」で、ランニングを例に「自身の身体との対話」により「自分が自分の身体をマネジメントできる事」がスポーツの醍醐味ではないかと述べました。衣・食ではすでに相当高いレベルでこれが実現していると言えそうです。「住」も同様に、器としての住宅から「住サービス」を受けるのではなく、住み手が住まいに働きかけ、対話し、継続的でインタラクティブな関係をつくって住まいをマネジメントできれば、単なるHOUSEでないSWEET HOMEとしての「住まい」が実現できるはず。

ところが、衣・食・働・遊にかける時間・お金・情熱に比べ、「住」=「家での暮らし」にかけるそれは格段に少ないのではないのでしょうか。広いとは言えない住宅空間をモノで埋め尽くし、人が肩身の狭い思いをしている日本の住まい。漢字の「住」は「人が主」と書きます。省エネ、スマート化、省力化の流れが「省人化」となることのないよう、住まいにおける人=住み手の主権回復をはかり、人と人、人とモノが交流する丁寧な暮らしをすることが、少子高齢社会におけるQOL向上の鍵となるような気がします。